

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:佐藤 直幸 同研究者:(武井 麗生) 所属:市立緑野小学校 記録日:2021 年 2 月 10 日

キーワード: 読み困難の補助 自信の回復

【対象児の情報】

- ・学年 6 年生 Eくん
- ・障害 注意集中の難しさ
- ・障害と困難の内容

読みがたどたどしかったり、漢字を読むことができなかったりするため文章の内容を読み取ることができない。またわからないことを自己解決する手段に乏しく、人に聞くことでしか解決することができない。

【活動目的】

- ・当初のねらい

読むことが苦手で自分の調べたいことや読みたい本などから情報を得ることができなかったため、読む力や補助する手段を身に付ける中で知識を獲得できるようにしていくことや自己解決の手段を得る中で他者に頼らなくても困難を自分で解決できるようにしていきたい。また、中学校に向けて自信を深め、意欲をもって学校生活を送ってほしいと考えた。そのため以下の目標を設定し、児童を支えていくこととした。

- ① 読みの力を向上させるとともに困ったときに自己解決できる方法を身に付ける。
- ② 動画づくりを通して他者から評価される経験を積み、自己肯定感をもつ。

- ・実施期間 令和2年5月～令和3年3月
- ・実施者 佐藤 直幸
- ・実施者と対象児の関係 特別支援教室 担任

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

- ・小学2年生から通級を活用している。週1回3時間の指導を今年度は受けている。(講師の時間1時間)

◆特性など

- ・注意集中の苦手さがあり、目で文章を追いつけることや長時間集中して学習に取り組むことに苦手さがある。
- ・WISC-IVでは処理速度とワーキングメモリーの低さが特に大きいことがわかった。

◆性格

- ・性格は温和で比較的眞面目。以前は友人関係でもトラブルがあり、学習意欲も低下していたが特別支援教室で関わり方を練習したり、自分の長所を他者から伝えられる経験を積んだりしたこともあり、関わりや意欲は向上してきている。
- ・わからないときは担任の先生に「教えてください」と援助を求めに行くことができる。
- ・物の名前がなかなか出てこない。「なんだっけ。えーと」と会話の中で悩む様子が見られた。

◆読み

- ・URAWSSの結果はCであり、読みに困難が大きい。
- ・漢字の読み方がわからずに学年相応の文章を初見で読み取るとは難しい。ルビを振ると読むことができる。
- ・語彙が少なく、イメージと言葉が一致していないものがある。そのため、漢字からイメージを描くことができず、文章の内容が理解できないことが多い。
- ・検索ツールなども活用できるが読めないため十分に活用できていない。

◆書き

- ・URAWSSの結果はAであり書きの速度はある。字の形もとれている。
- ・漢字を想起して書くことが難しい。何度も繰り返し練習をすると覚えることができるが定着しにくい。

【活動内容と対象児の変化】

活動のねらい

① 学習の基礎となる言葉の力を高める。

- ・文字と音とイメージと一緒に触れることのできる環境をつくる。
- ・日本語アプリを活用して基本的な語彙を増やす。

① 読みの力を向上させるとともに困ったときに自己解決できる方法を身につける。

○読めない漢字があったときの解決方法を身につける

- ・OCR機能や音声読み上げ機能を活用し、自分で調べられるようにする。
- ・アプリ「漢字画像検索」を用いて漢字からイメージをもてるようにする。

② 動画づくりや交流を通して他者から評価される経験を積み、自己肯定感をもち。

- ・自分の覚えやすい学習方法を動画にまとめ、伝えることで称賛や感謝される経験を積む。
- ・音声入力を通して言葉の音と漢字を一致させる。

活動の具体的内容

① 学習の基礎となる言葉の力を高める。

・音声の支援は学習のしやすさを支える上で有効だと考えられるものの、読みの苦手さにより漢字とイメージの一致ができていないものが多数あった。そのため音声での支援のみでは文章の理解を進めるためには十分ではないと考えられた。語彙を増やしていく環境づくりや支援も同時に行っていくことにした。

○取り組み1…映像と文字を結び付ける

家ではTVやyoutubeを視聴している習慣があることがわかった。

日常的に見ているものに字幕を付けることで音と言葉とイメージを一致できる機会を増やすことにした。

テレビに字幕を付ける方法

1. リモコンの「ホーム」ボタンを押す
2. 「設定」を選び、「決定」を押す
3. 「機能切替」-「視聴操作」を選び、「決定」を押す
4. 「字幕」を選び、「決定」を押す

Youtube動画に字幕を付ける方法

1. 動画を選択する
 2. 「設定」を選び、「字幕」をオンにする
- ※動画によっては字幕がつけられないものがあります。また誤字もあります。

○取り組み2…日本語アプリを活用して基本的な語彙を増やす

日常語彙で知らないものも見受けられたため個別の学習の時間でウォーミングアップとして「6000単語 - 日本語とボキャブラリーを無料で学習」のアプリを用いて語彙の学習を行った。このアプリは言葉と写真と音が同時に確認することができる。また聞いた言葉がどの写真のものかを選ぶ練習や、言葉の穴埋め練習などにも活用できた。音と言葉とイメージを短時間で確認できる点が見児にとっても有効だった。



「6000単語 - 日本語とボキャブラリーを無料で学習」



指導のステップ

- ① ジャンルを選んで名称を確認する
- ② 選択肢から正しいものを選ぶ
- ③ 新しく覚えた言葉や自信がなさそうにしていた言葉に絞って言葉の構成を確認する

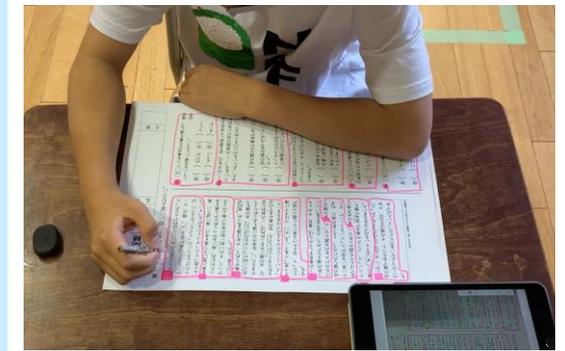
○取り組み3…音声支援を使い、本来の力が発揮できるようにする。

読みの速度がCだったため、音声での支援が有効だと考えられた。そのため「metamojiNote2」を用いてテストを音声化し、取り組むことを試した。しかし、支援を続ける中でひらがなの文章ではある程度流暢に読むことができることがわかり、漢字にルビをつける支援に移行した。ルビ付きのプリントを活用するだけでも最後まで解答できる頻度が上がってきている。読み方がわからない漢字を自分で調べられるようになることや語彙を増やしていくことをまず行い、必要に応じて音声の補助を活用していくようにした。



「metamojiNote2」を用いたプリントの音声化

- ① プリントを写真に撮る
 - ② 「新規ノートを作成する」を押し、ノートを作成する
 - ③ 「+」のボタンを押し、「写真を追加する」を押し
 - ④ 写真を追加したのちに、「音声ユニットを追加」を押し
 - ⑤ 出てきたアイコンをタップし、録音をする
- ※プリントは事前に枠で囲っておくどどの部分を読んでもらえるかとらえやすくなる。



① 読みの力を向上させるとともに困ったときに自己解決できる方法を身に付ける。

○読めない漢字を攻略する

対象児のEくんは漢字が読めないことで文章に何が書いてあるのか理解することが難しかった。また解決方法として「担任の先生に聞く」「保護者に聞く」ことで対処してきたが、保護者がいないときに宿題ができずに困ってしまうということがあった。そのため「自分で解決できる」ことを目指すこととした。

○取り組み4…「タッチ&リード」を使い読み方を確認する

まず漢字の読み方を確認するために写真を撮って読んでほしい部分を選択すれば、すぐに音声で確認できる「タッチ&リード」を活用することにした。操作方法自体はすぐに慣れ、活用することができている。個別の時間で練習した後に徐々に家での活用を試している。

音声で漢字を確認しないときはほぼあきらめていた問題でも6割～8割程度解くことができた。※現在タッチ&リードは配信が停止されている。他のOCR+テキスト貼り付けからの音声読み上げでも同様の支援ができる。



タッチ&リードの操作方法



- ① 読んでほしい部分を写真に撮る。その後写真を選択する。
- ② 読んでほしい部分を選択し、「OCR機能」のボタンを選択する。
- ③ 左下の再生ボタンを押し、聞く。

○イメージがつかめない漢字を攻略する

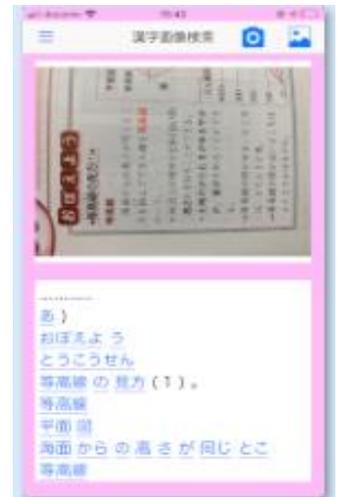
○取り組み5…「漢字画像検索」+音声読み上げの機能を用いてイメージをもつ

音声で聞くことによってやりやすくなったものの、言葉の意味が分からずにイメージをもつことが難しいこともあった。イメージをもつために「漢字画像検索」を用いて調べる方法を教えた。操作は比較的簡単なのですぐに覚えることができ、わからない言葉も調べることができた。音声読み上げ機能も使うことができるようになり、検索ツールを用いて調べたい内容を検索することができるようになった。



漢字画像検索と音声読み上げ機能を用いて調べる

- ① ipad のアクセシビリティから音声読み上げ機能をオンにする。
- ② 「漢字画像検索」のアプリを開き、調べたい文章を写真に撮る。
- ③ 下部に文章とリンクが表示されたら調べたい言葉のリンクをタップする。
- ④ Google で出てきた文章を選択し、音声読み上げ機能を用いて説明を聞く。
- ⑤ 画像検索のタブを押し、どんなものなのかイメージをもつ。



② 動画づくりや交流を通して他者から評価される経験を積み、自己肯定感をもつ。

取り組み6…アドバイス動画を作ろう

Eくんに①の方法を活用すると学習がしやすいと実感が出てきた段階で自分に合った学習の方法を動画にして紹介する活動を行うことを提案した。特別支援教室のふたば教室では前年度より動画を活用した指導を行っている。(魔法 wallet プロジェクト活動報告書参照)Eくんも youtube はよく見ている動画づくりにも意欲的だった。動画作成に関しては下図のように行った。編集はCuteCutと状況に応じて iMovie を併用して行った。文字の入力は、最初は自分の発した音が漢字に変換されることを確認する中で正しい漢字を選べるようにしたいという考えから音声入力を用いたが、正しい漢字が選択できるようになってきた段階で徐々にローマ字でのキーボード入力に移行をした。現在は音声入力とローマ字入力を並行して行っている。漢字学習の方法や漢字の調べ方を動画にまとめ、特別支援教室内に特設コーナーを作り見てもらったり、直接見せたりするようにした。その中で特別支援教室の仲間や学校の教員達から評価をもらう経験を積むことができた。

動画作成の手順

- ① カメラ機能で動画を撮る。(もしくは画面録画機能で画面録画をする。)
- ② CuteCut若しくは iMovie に動画を入れる。
- ③ 字をキーボードや音声で入力する。
- ④ 動画をタブレットに保存する。
- ⑤ 特別支援教室の中で見るができるようにする。



取り組み7…いろいろな人に紹介しよう

Microsoft の Teams を使い、巡回校の特別支援教室の児童と交流を行った。自分の学びやすい方法を紹介したり、同じように悩んでいる児童と交流したりした。読み書きが苦手な子が自分以外にもいて、同じように工夫しながら学んでいることを知ることができたこと、自分の紹介した学習の方法が相手から「自分なりの方法で勉強しているなんてすごいと思った」「漢字のやり方がすごい」と声をかけられたことで嬉しがっている様子が見られた。

Microsoft Teams を使った交流

東京都は各校の特別支援教室を特別支援教員が巡回指導をしている。

各学校の特別支援教室「ふたば教室」を Teams で接続し、児童同士で交流を行った。対象児の E 君だけではなく6年生同士の交流や小集団指導でのコミュニケーションでの交流などを行いながら関わりを広げている。

※Teamsを使うにはMicrosoftのアカウントが必要であり、交流には管理職の許可のもと行っています。



対象児の事後の変化

① 学習の基礎となる言葉の力を高める。

支援前では「これってなんですか?」「どういう意味ですか?」と聞き返してくることが多かったが、支援後は「あっ!これ知ってる!」「見たことある!」と聞き返してくることが減ってきている。「なんだっけ?」と思い出すことが難しい時があるが、検索スキルの向上により、自分で調べられるようになってきたのでわからないことも調べて思い出したり確認したりすることができるようになってきている。

② 読みの力を向上させるとともに困ったときに自己解決できる方法を身に付ける。

上記①の語彙を増やす取り組みや音声支援、速読練習などによる言葉をまとまりでとらえる力を高める取り組みと並行して漢字の読みを自分で調べることやイメージをもつ取り組みを行ったことで初見の文章でもおおよそ内容を捉えることができるようになってきている。支援前は読解プリントが30点程度であったが、支援後ではタブレットで漢字を調べながらであれば70点程度取れるようになってきている。また母親に漢字をわからない漢字を聞いて解決していたが、自分で漢字を調べられるスキルを習得した後は家庭学習で漢字を自分から調べることができるようになり、家庭学習も母親がいないときでも取り組めるようになってきている。

③ 動画づくりや交流を通して他者から評価される経験を積み、自己肯定感をもつ。

自分の取り組みが称賛されたり、感謝の気持ちを伝えられたりしたことで自分なりの学び方の価値を再確認し、より意欲的に取り組もうとする姿が見られている。「先生、家で全部漢字調べてきた!」と報告をしてくれることも増えてきており、家庭での学習習慣も定着できてきている。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

(1)自分なりの解決の手段を獲得したことで学習への意欲が上がったのではないか

(2)自己解決できる手立てや称賛を受ける経験を積んだことで自信につながったのではないか

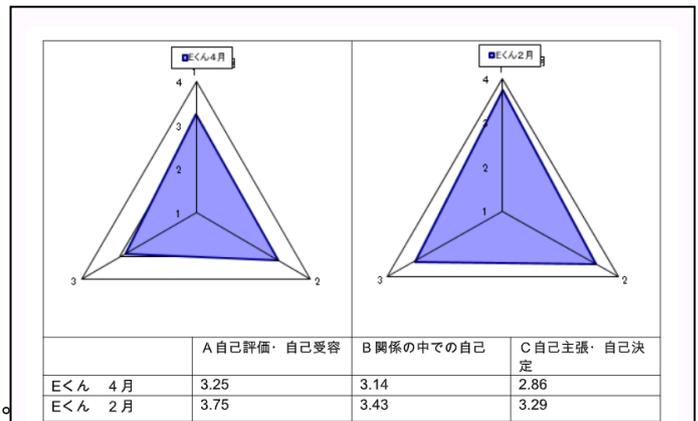
・エビデンス

(1)に関して

・宿題の提出状況が向上し、家庭学習に取り組むことができる時間も増えてきている。また以前は文章を書くときに漢字を使わずにひらがなのまま記載することが多かったが、今ではタブレットを活用して自分で漢字を調べて書こうとする姿が見られた。課題についても「わかりません」とあきらめていた様子も見られていたが、最後まで粘り強く取り組もうとする姿も見られるようになってきている。

(2)に関して

小集団指導「ビフォー&アフター」の活動の中で自分の得意なこととして「漢字がわからないのを調べること」と記載していた。また以前の自分と変わったこととして「自分で解決できるようになってきた」と紹介していた。自分の中でもできるようになってきていることが蓄積されていると感じてきているようであり、自己肯定感も向上したことがうかがえる。また自尊感情尺度(東京都版)でも各項目が向上してきていることがわかる。称賛される経験や自己解決の手立てをもったことで自信につながったと考える。



★アフター

～ふたば教室に来て変わったこと～

やってみてどうだったか①

落ち着いて勉強が出来るようになってきた。
イライラしなくなってきて友達と仲良く過ごせるようになってきた。
自分勝手じゃなくなってきた。

やってみてどうだったか②

自分から漢字を調べることが出来るようになってきた
文章を読む力が上がった
昔は授業に集中できなくてやる気がなかった。でも今は集中出来るようになってやる気があがった。

